

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000086	事業の開始年月日	平成22年5月1日	
		指定年月日	平成22年5月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	小規模多機能型ミモザ平塚徳延			
所在地	(〒254-0902) 神奈川県平塚市徳延177-1			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	24名	
		通い定員	12名	
		宿泊定員	4名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年月日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ミモザの経営理念とする、温かい「介護する家庭」をモットーにしています。安全で居心地の良い場所作りをし、今日も来て楽しかったと言われる場、サービスの提供を心掛けています。事業所の環境も、山・川に恵まれ、昔からある懐かしい、温かい環境に恵まれています。送迎時に見える富士山も絶景です。四季の移り変わりを感じられるよう、外出レクを実施したり、季節の行事をグループホームのスタッフと一緒に企画し、デイサービスとの連携も行いながら、利用者様の笑顔がたくさん見られるように日々頑張っています。また、小規模多機能型の特徴を生かし、通い・泊まり・訪問と、柔軟なサービスの提供を行っています。私たち小規模多機能型で働くスタッフのチームワークは抜群です。利用者様と一緒に、一杯の笑顔で、対応させて頂いています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年3月28日	評価機関 評価決定日	平成26年4月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇何でも、とりあえずやってみようで始める笑顔のチームケア 法人の社是は「人を育てる」であり、事業所内には「あいさつを・いつも笑顔で」など職員達で作った理念通りの笑顔がある。「何でも、とりあえずやってみよう」という職員同士の合意と協力があり、日常の笑顔や急な依頼にも柔軟に対応できるチームワークを生んでいる。職員は「自分がイライラしていないか」など自己チェックを行い、自分が笑顔であると利用者が笑顔になることを常に意識している。 ◇わかりやすいプレゼンテーション能力 案内パンフレットはイラスト、カラーを豊富に入れたアニメ編集で文字を追わなくても内容がわかる。毎月利用者・家族に送る「小規模 月刊誌」は1枚のシートだが、毎回行事、食事、作品など盛り沢山の写真と1行ずつの説明で構成され、家族からも状況がわかりやすいと評価されている。さらに、運営委員会議事録までも対話型で記録してあり会議の雰囲気まで伝わってくる。優れた情報発信能力が利用者・家族との信頼に役立っている。</p> <p>【事業所の工夫点】 ◇日常記録のプライバシー配慮 排泄記録等はすぐ書ける場所にあるが、表紙を閉じて見えないようにしてある。 ◇くつろげる採光への配慮 高齢で眩しさに弱いことを考慮し、こまめにカーテンを開閉して調整している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ平塚徳延
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○ミーティング、毎日の申し送り時などで、理念の共有、小規模多機能型のサービスの意義の話し合いを行い、実践に繋がるよう意思疎通を図っている。	・職員たちで作った理念「あいさつを、いつも笑顔で、向上心、ともに支え合える、場所を目指す」をフロアに掲示している。 ・中でも笑顔を大切にし、楽しい雰囲気作りに気を配っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域のボランティアの受け入れ、地元の医院との協力体制、地域支援包括センターとの情報交換などを通して、地域との交流を深められるように努力している。また、地域の方が参加できる催しを開催し参加を検討している。	・地域住民に向けたカフェ、ガレージセールなどのイベントを実施している。 ・バンド演奏、フラワーセラピー、習字、舞踊などの地域のボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○運営推進会議などの場での認知症に対する理解の支援、地域の方が見学、相談に来られた時の相談援助を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見サービス向上に活かしている	○2ヶ月毎に自治会長、民生委員、家族代表、地域支援包括センター、当施設職員の参加で開催している。利用者様の状況報告を行い、皆さんの意見、要望をくみ取り、サービスの向上に努めている。	・家族、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員が参加し2か月ごとに開催している。 ・開催の都度、全家族に知らせて参加を呼びかけている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○地域支援包括センターを通し、介護保険課、高齢福祉課の担当者などと、日頃から連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。利用者様の状況により、保健福祉事務所などへの連絡も取っている。	・市との連絡の多くは地域包括支援センターを經由して行われている。 ・小規模多機能型連絡協議会の月例会や事例発表研修会に毎回出席している。 ・市の介護相談員が月1回訪れ、利用者2人に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○マニュアルを、管理者、職員で、内部研修にて理解できるように学び、身体拘束しないケアに取り組んでいる。また、常に現場の事例を通して、分かりやすく理解できるように取り組んでいる。	・身体拘束排除マニュアルがあり、五つの基本的ケアを決めてあり、内部研修で拘束を行わないケアに取り組んでいる。 ・緊急止むを得ない場合は、担当者のみで判断せず管理者と検討し、家族了解のもとで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○虐待防止について、内部研修にて学び、虐待が見過ごされないように注意している。また、重要事項説明書にも記載している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○権利擁護に関して、内部研修や外部研修の参加を促し、理解と意識向上のため話し合い、共有化を図っている。利用者によっては、包括を通して、自立支援事業、安心センターへの連絡調整を行い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○契約時には、十分な説明を行い、理解を得て、納得して頂けるよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○運営推進会議、また、送迎時にお話を聞いたり、連絡ノートを活用し、管理者や職員に要望などが言えるような雰囲気になるよう努めている。また、家族会を催し、意見が聞けるようにしている。	・年1回の家族会、食事やレクリエーションのアンケート、送迎時に利用者や家族の意見を把握している。入浴時は利用者の本音が聞ける貴重な時間として大切にしている。 ・家族は連絡ノートで一日のことがよく分ると評価している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○ミーティング、毎日の申し送り時などで、意見や提案を聞き、皆で共有し、検討するよう努めている。	・送迎時に得た情報、気付きを朝夕の申し送り時に検討し、「とりあえずやってみよう」を合言葉にチームワークで実行している。 ・事例発表会で「一生現役ミモザのお寿司屋さん」を提案発表し、全社で第1位の表彰を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○代表者は、職員個々の勤務状況を把握しており、向上心が持てるようにミーティングなどで、出される要望について検討、回答し、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○代表者は、職員が計画的に外部の研修を受けられるように体制を整えている。また、社内に研修センターがあり、それぞれの立場で育成を行う取組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	○市内の事業所と小規模多機能型居宅サービス連絡会を設立し、ネットワークの確立、情報交換の場として活動している。また、地域での小規模多機能型のサービスの理解を得るための取組みを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○計画作成者が本人に希望や不安な事を丁寧に聴き取りながら、アセスメントを行い、信頼関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○計画作成者をご家族に希望、コアっている事など、丁寧に聞き取りながら、アセスメントに組み入れ、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○まず必要なサービスをご本人、ご家族と共に見極め、通い、訪問、泊まりのサービスの組み合わせの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○ご本人の出来る事、したい事を職員は理解し、そばに寄り添い、共に支え合える関係になるように努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○連絡ノート、電話、送迎時を通して、情報の共有を行い、共にご本人を支えていける関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	○地元の友人の方などが気さくに遊びに来れるような雰囲気を作るようにしている。また、散歩、買い物の支援で、なじみの場所、お店などに行き、関係継続ができるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩の送迎時に会おう知人や途中で立寄る知人との交流を大切にしている。また、趣味の仲間が事業所に遊びに来るなど、馴染みの関係が継続するように支援している。 ・頼まれた手紙の代筆や郵便の投函なども手伝っている 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○つねにご利用者の様子、周りの人間関係などに気配りをしながら、孤立する事がないようにしている。また、レクなどを通して、交流できるように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○契約が終了しても必要に応じ、連絡を取り、ご本人、ご家族の相談に応じるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	○自宅での過ごし方、サービスの中での過ごし方の希望、思いを聞けるように努めている。困難な場合はご家族、職員からの聞き取りを行い、その意見を汲み取るようにしている。	・世間話を交えて会話に時間をかけ、また、利用者の立場に立って会話をし、利用者の真の思いを把握するように心がけている。 ・入浴介助の1対1の時間を大切に、利用者の真の思いを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○ご本人、ご家族から、または包括から、これまでの暮らしの状況などの情報を得ながら、今までの暮らし方を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○ご本人、ご家族から、また、職員から、過ごし方、心身状態、できる事を聞き取り、現状の把握の努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○それぞれのご利用者にある課題とケアについて、常時、本人、ご家族、職員などに意見や工夫などを聞き、介護計画に反映されるようにしている。	・ケアカンファレンスは管理者、看護師、常勤職員で行っている。 ・毎日の申し送りをミニケアカンファレンスと位置づけ、ちょっとしたことでもすぐ話し合える雰囲気大切に、こまめなモニタリングと計画修正をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○日々の様子、気付いたこと、工夫などを個別記録、経過記録の記入し、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○その時、その時の必要なニーズに沿って、柔軟な支援を小規模多機能の利点として取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○包括支援センター、自治会と共に運営推進会議などで、地域の情報を共有し、本人の豊かな暮らしに結びつくように努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○ご本人とご家族の希望に沿いながら、適切な治療がスムーズの受けられるようにかかりつけ医を紹介している。	・管理者は利用者のかかりつけ医に電話を入れて情報を共有している。 ・利用者のかかりつけ医に事業所へ往診してもらう便宜も図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○日常の関わりの中、入浴の時など、気付いたことを看護職員に伝え、相談している。個々の利用者が適切な受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○利用者の入院時は、ご家族、医療機関との連携を取り、安心して治療が受けられる事ができ、退院後の心配がないように情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○現在、対象者はいないが、重度化、終末期に向けての研修は継続して行っている。また、現在の事業所で、できる支援をていねいにご本人、ご家族に説明している。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所での重度化、看取り対応介護の実現は長期課題としている。 ・接遇マニュアルに看取りのときの心得があり、外部研修に管理者、看護師が出席している。 ・重度の入浴介助にも取り組むほか協力医と24時間対応の協定がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇マニュアルに看取りのときの心得がありますが、看取りに対応するときの職員の精神的ケアに関する研修を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○緊急時のマニュアルの沿って、急変や事故発生時の研修を行い、実践力が身につくようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○防災避難訓練を定期的に行っており、緊急時すぐに駆けつけられる職員を確保している。また、災害時の対応として、食糧、水、コンロの備蓄やヘルメット、防災頭巾、懐中電灯の保管確認をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練は年2回、併設のグループホームと合同で行っている。 ・津波浸水は床面までを想定・2階に待機、火災は駐車場へ避難するなど災害を具体的に想定している。 ・普通のごみ袋をポータブルトイレに使うなど備蓄にも工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内外、2階に分散保管している備蓄について緊急時すぐ分るように表示を出し、また、災害時の避難先を家族に知らせて安否確認をしやすくしておくことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○秘密保持に関して、契約書においても約束をしており、お一人お一人の人格を尊重しつつ言葉掛けをするように職員全員で徹底している。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いに関し、利用者と契約書を取り交わし、職員は入社時に誓約書を提出している。 ・職員は研修や申し送り時に利用者への接し方を確認し実践している。 ・書類は事務所内の施錠できる書庫に保管している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○サービスの中で、ご本人の言葉や表情から、思いや希望をくみ取る様にし、自己決定できるような雰囲気づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一人一人の利用者様のアセスメントを職員全員が共有し、どのような過ごし方を望んでいるか、常に話し合いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○身だしなみやおしゃれをされている時などは言葉掛けをし、自信をつけて頂けるよう、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○食事のアンケートを実施するなど、お一人お一人の好みを把握し、食事の工夫を行っている。巻き寿司など行事食の催しや、準備、片付けなど出来る事を一緒に楽しみながらできるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事アンケートを実施し、巻き寿司などの行事食や食事の量、味付け、外食等に反映している。 ・食事中は音楽が流れ、談笑しながら食事を楽しんでいる ・利用者はテーブル拭きや下膳、ときには調理などを手伝っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○お一人お一人の状態を観察し、今までの習慣をご家族から聞き取り、栄養バランス、食事量、水分量が適量に確保されるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○食後、ご本人の自立を損ねないように見守り、利用者様の状態に応じて、介助しながら口腔ケアを励行している。また、来所時など、うがいの励行も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	○排泄チェックを行い、お一人お一人の排泄パターン、習慣を把握し、トイレでの排泄をすすめ、失敗した時にも自尊心を傷つけないような言葉掛けを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表を活用し自尊心に配慮した言葉掛けでトイレ誘導をしている。 ・失敗しても、他の人に気づかれないようにさりげなく対応している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○服薬やご本人の活動状況などを観察し、便秘の原因を探るとともに、水分補給、繊維質のある野菜料理の工夫、腹部マッサージなど利用者様の状態に応じて行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	○ご本人の身体状況、ご家族の希望を踏まえ、時間帯の工夫や入浴剤の香りなどリラックス感を高めるような配慮を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴日や時間は決まっていないが、週2回の入浴を確保している。 ・利用者と雑談しながら気持ちよく入浴できるよう支援している。 ・季節によって柚子湯や、入浴剤を入れて楽しんでいる。 ・入浴のみ利用している人もいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○自宅での生活習慣を把握し、漣漣と変わらないペースで、安心して眠れるよう工夫している。眠れない時は傾聴を行ったり、飲み物の提供を行い、気持ちが落ち着くように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○お一人お一人の服用されている薬の情報を職員全員で共有し、症状の変化についても必ず確認を行い、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○好きなこと、得意とする事、生活歴、能力などを活かし、職員で話し合いながら、その方に合った役割や楽しみごとを考え支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○買い物に行きたい、散歩に行きたいなど個々の希望に沿って、日常的に買い物などの外出の支援ができるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの神社や事業所の周りを日常的に散歩している。 ・月1回ファミレスでスイーツレク、季節ごとに総合公園の花見など、外出機会を多く作っている。 ・通院や買物の同行、気分転換のドライブなど個別支援をしている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○今まで、ご自分で大事に金銭管理をされていたことを職員が理解し、利用者様の希望、力に応じて、一緒に買い物に行くなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○家族、友人に連絡したい、手紙を書きたいなどの希望がある時は、連絡手段のお手伝いや、必要な支援を行い、スムーズなやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○共有の空間には、不快感を感じないよう配慮し、季節に応じた飾り付けを利用者様と作り、楽しみ、季節感も大事にしながら、居心地の良い空間になるよう心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・共用空間は南側が広い窓で明るく清潔である。空気清浄器や加湿器を設け、居心地よく過ごせるように配慮している。 ・利用者が作った季節の花のタペストリーや生花を飾り季節感がある。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○利用者様がそれぞれ思い思いの時間が過ごせるように席の工夫をしたり、孤立しないように言葉掛けをするなど配慮している。また、一人でゆっくりと過ごしたいとの要望がある時などは個室を利用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○休憩時には音や光に配慮し、泊まりの時には、ご本人の好きな物やあると安心するものなどをお持ち頂くようにし、希望を聞きながら、居心地良く過ごせるよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室はエアコン、カーテン、ベッド、布団、チェストを備えて、快適に暮らせるよう配慮している。 ・使い慣れた物を持ち込み、居室で寛げるように支援している。 ・持ち物がなくても緊急対応できるように必要備品を整えている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○建物はバリアフリーになっており、手すりも充実している。安全の確保と、利用者様の力を活かすだけ自立して移動できるよう配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

小規模多機能型
ミモザ平塚徳延

作成日

平成26年4月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化、終末期における職員の精神的ケア	つねに重度化、終末期に対して対応できるように、職員の意識の向上を目指す。	定期的な研修（外聞研修を含む。）	1年
2	35	災害時の安否確認 災害時の備蓄確認	職員全員が緊急時に備蓄の場所、内容が周知でき、ご家族への安否確認がスムーズに行われる。	備蓄の場所、内容の確認をする。 緊急時の職員の対応についての研修の継続。	半年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。